

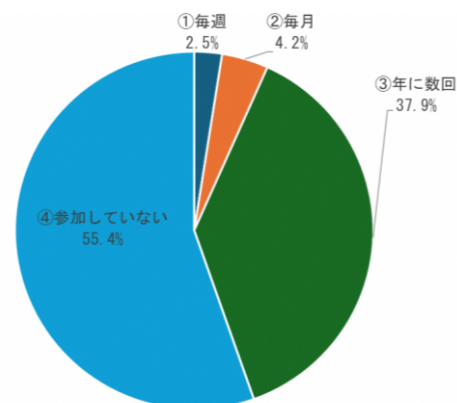
# 市政モニターアンケート 結果報告書

《地域活動やボランティア活動について》

地域活動やボランティア活動への参加状況について、どの程度参加されていますか。  
あてはまる番号を1つ選んでください。

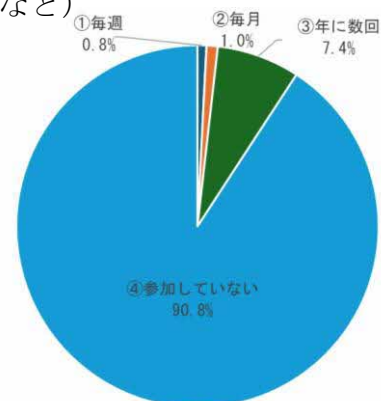
問1. 校区コミュニティ協議会・自治会の活動やお手伝い（地域行事やお祭りなどのイベント）

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	10	2.5
②毎月参加している	17	4.2
③年に数回参加している	153	37.9
④参加していない	224	55.4
合計	404	



問2. 高齢者への支援活動（声かけ等の見守り活動やサロンなど）

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	3	0.8
②毎月参加している	4	1.0
③年に数回参加している	30	7.4
④参加していない	367	90.8
合計	404	



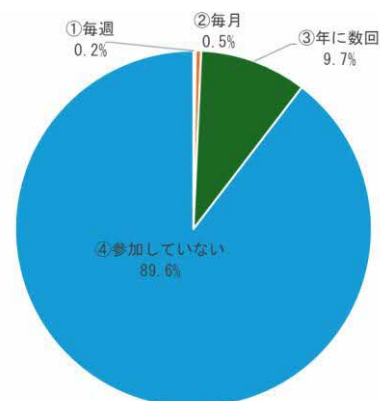
問3. 子どもへの支援活動（声かけ等の見守り活動や子ども食堂など）

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	12	3.0
②毎月参加している	9	2.2
③年に数回参加している	57	14.1
④参加していない	326	80.7
合計	404	



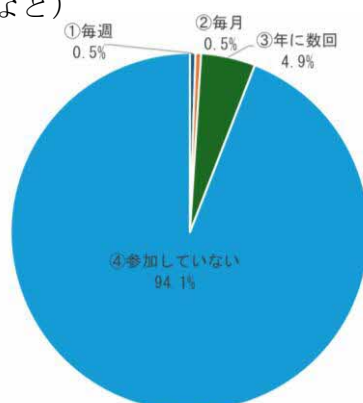
問4. 保育・子育てに関する活動（一時預かりや交流会）

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	1	0.2
②毎月参加している	2	0.5
③年に数回参加している	39	9.7
④参加していない	362	89.6
合計	404	



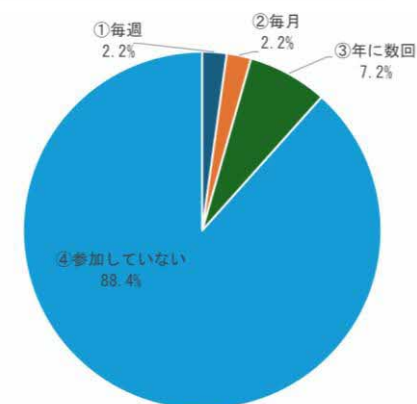
問5. 障害のある方への支援活動（交流会や手話通訳、点訳など）

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	2	0.5
②毎月参加している	2	0.5
③年に数回参加している	20	4.9
④参加していない	380	94.1
合計	404	



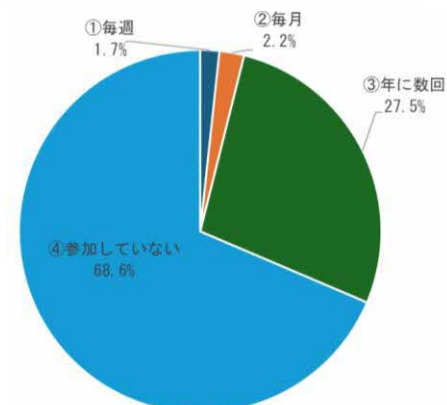
問6. サークル活動などへの支援、指導

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	9	2.2
②毎月参加している	9	2.2
③年に数回参加している	29	7.2
④参加していない	357	88.4
合計	404	



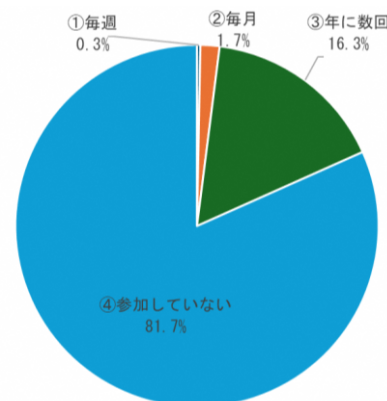
問7. 道路や公園などの清掃活動

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	7	1.7
②毎月参加している	9	2.2
③年に数回参加している	111	27.5
④参加していない	277	68.6
合計	404	



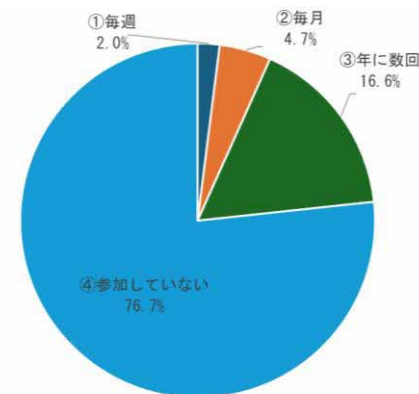
問 8. 防災、防犯、交通安全などの活動（パトロールなど）

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	1	0.3
②毎月参加している	7	1.7
③年に数回参加している	66	16.3
④参加していない	330	81.7
合計	404	



問 9. その他の地域活動、ボランティア活動

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①毎週参加している	8	2.0
②毎月参加している	19	4.7
③年に数回参加している	67	16.6
④参加していない	310	76.7
合計	404	



【考察】

問 1～問 9 の回答結果から、いずれの活動も、「④参加していない」の回答割合が最も多くなっており、「高齢者への支援活動」、「障害のある方への支援活動」については参加していない方が 9 割を超え、特に多いことが分かりました。

一方、「校区コミュニティ協議会・自治会の活動やお手伝い」や「道路や公園などの清掃活動」については、他の活動に比べると参加される方の割合が多くなっていることが分かりました。

《相談支援機関や相談窓口について》

もしも、身近に次のようなことがあった場合、あなたはどこに連絡・相談しようと思いますか。あてはまる番号を選んでください。⑥を選択した場合は詳細を記入してください。

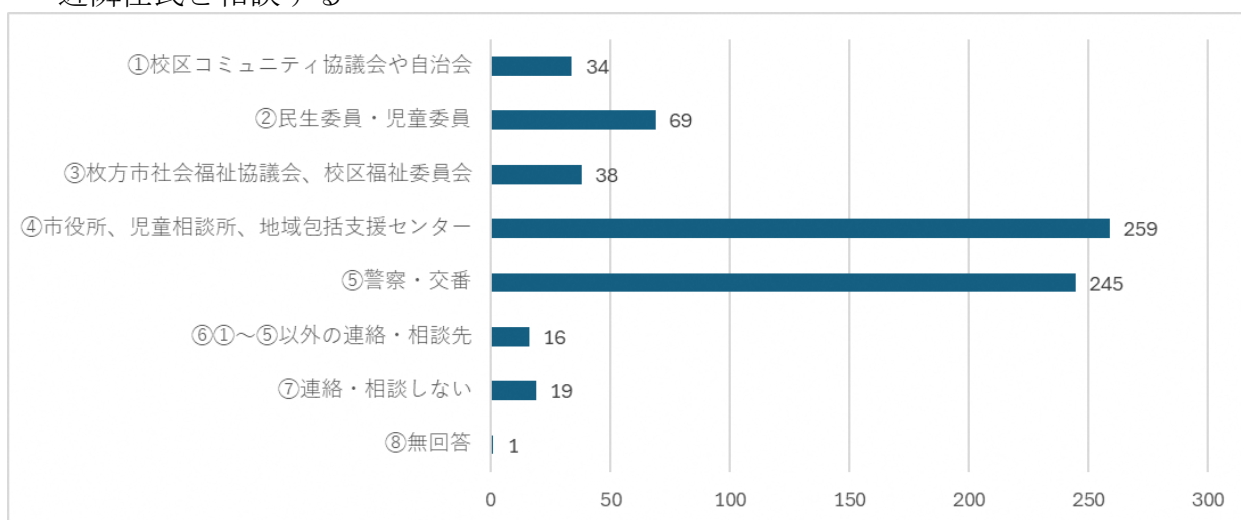
問 10-1. 近所で子どもが虐待を受けているのではないか。（複数選択可）

選択項目	回答数(件)
①校区コミュニティ協議会や自治会	34
②民生委員・児童委員	69
③枚方市社会福祉協議会、校区福祉委員会	38
④市役所、児童相談所、地域包括支援センター	259

⑤警察・交番	245
⑥①～⑤以外の連絡・相談先	16
⑦連絡・相談しない	19
⑧無回答	1
合計	681

●⑥を選択された方の回答（自由記述）

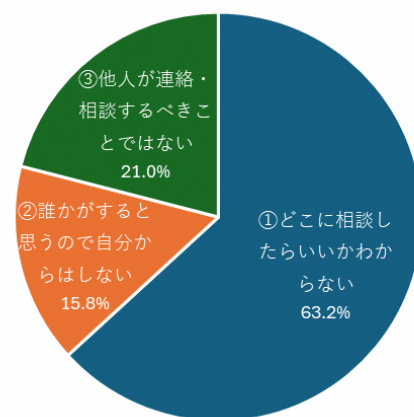
- ・小学校や中学校、保育園
- ・189（児童相談所虐待対応ダイヤル）
- ・市議会議員
- ・近隣住民と相談する



【⑦を選択された方にお聞きします。】

問 10-2. 次のうち、あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①どこに相談したらいいかわからない	12	63.2
②誰かがすると思うので自分からはしない	3	15.8
③他人が連絡・相談するべきことではない	4	21.0
合計	19	



### 【考察】

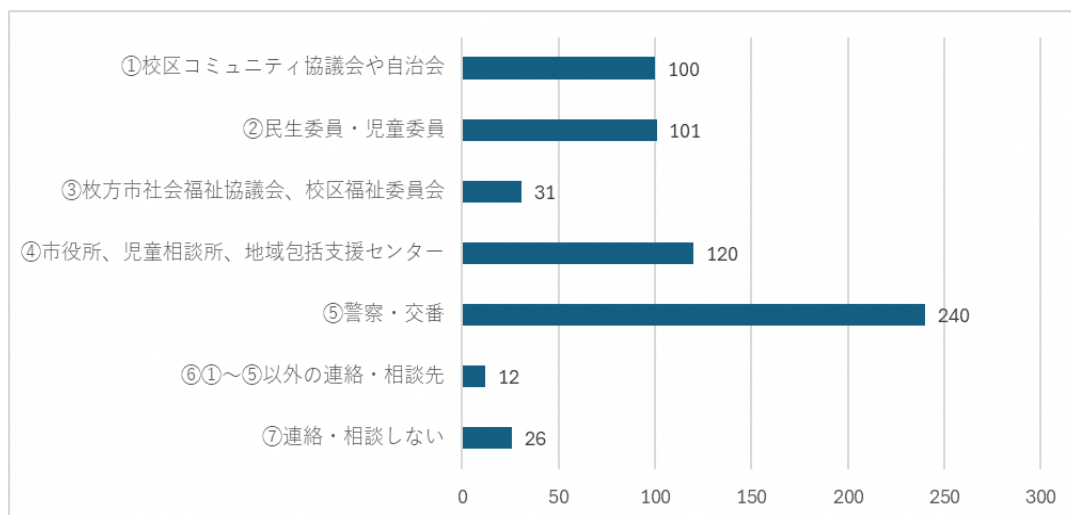
近所で子どもが虐待を受けているおそれがある場合の連絡・相談先は「④市役所等」が最も多く、次いで「⑤警察・交番」となり、公的機関へ連絡・相談をされる方が多いということが分かりました。また、その他として 189（児童相談所虐待対応ダイヤル）に通報するという回答も 4 件ありました。様々な児童虐待の通報・相談先が広く周知されていることが読み取れます。

問 11-1. 近所で一人暮らしのお年寄りをしばらく見かけないが、家の中で倒れているのではないか。（複数選択可）

選択項目	回答数(件)
①校区コミュニティ協議会や自治会	100
②民生委員・児童委員	101
③枚方市社会福祉協議会、校区福祉委員会	31
④市役所、児童相談所、地域包括支援センター	120
⑤警察・交番	240
⑥①～⑤以外の連絡・相談先	12
⑦連絡・相談しない	26
合計	630

#### ●⑥を選択された方の回答（自由記述）

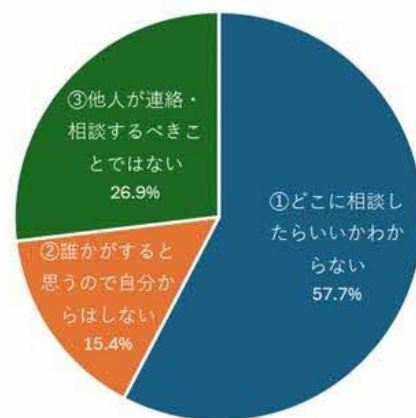
- ・ マンションの管理事務所や管理人
- ・ 近隣住民と相談する
- ・ 市議会議員
- ・ 地域の班長
- ・ 直接その方の自宅を訪問する



【⑦を選択された方にお聞きします。】

問 11-2. 次のうち、あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①どこに相談したらいいかわからない	15	57.7
②誰かがすると思うので自分からはしない	4	15.4
③他人が連絡・相談するべきことではない	7	26.9
合計	26	



【考察】

近所で一人暮らしのお年寄りをしばらく見かけない場合の連絡・相談先は、「⑤警察・交番」が最も多く、次いで「④市役所等」となりましたが、「②民生委員・児童委員」や「①自治会」も高い割合となっており、地域住民内で相談される方も多いということが分かりました。このことから、共助の仕組みとして、自治会が重要な役割を担っていることが分かりました。

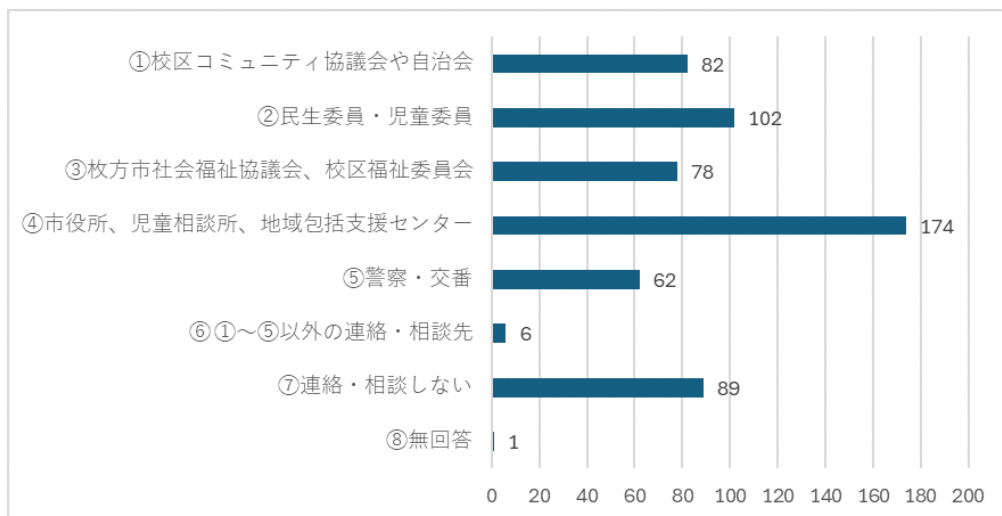
問 12-1. 障害や病気、経済的問題など、何らかの困難を抱えた家庭があり、地域から孤立しているようで心配だ。(複数選択可)

選択項目	回答数(件)
①校区コミュニティ協議会や自治会	82
②民生委員・児童委員	102
③枚方市社会福祉協議会、校区福祉委員会	78
④市役所、児童相談所、地域包括支援センター	174
⑤警察・交番	62
⑥ ①～⑤以外の連絡・相談先	6
⑦連絡・相談しない	89
⑧無回答	1
合計	594

●⑥を選択された方の回答(自由記述)

- ・ 弁護士
- ・ 支援活動をしている NPO 法人
- ・ 障害者相談支援センター

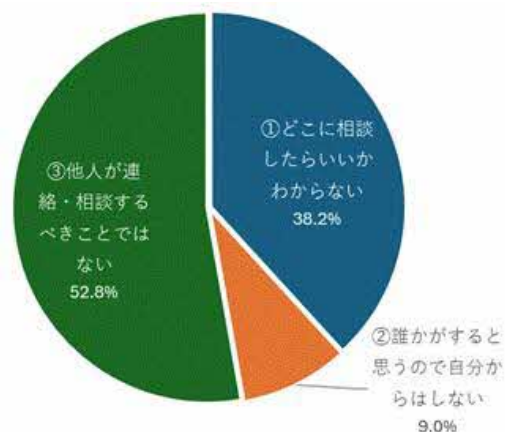
・近隣住民と相談する



【⑦を選択された方にお聞きします。】

問 12-2. 次のうち、あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①どこに相談したらいいかわからない	34	38.2
②誰かがすると思うので自分からはしない	8	9.0
③他人が連絡・相談するべきことではない	47	52.8
合計	89	



【考察】

障害や病気、経済的問題などの困難を抱えた家庭が地域から孤立しているようで心配である場合の連絡・相談先は、「④市役所等」が最も多く、次いで「②民生委員・児童委員」となり、民生委員・児童委員が地域の相談役として広く認識されていることが読み取れます。

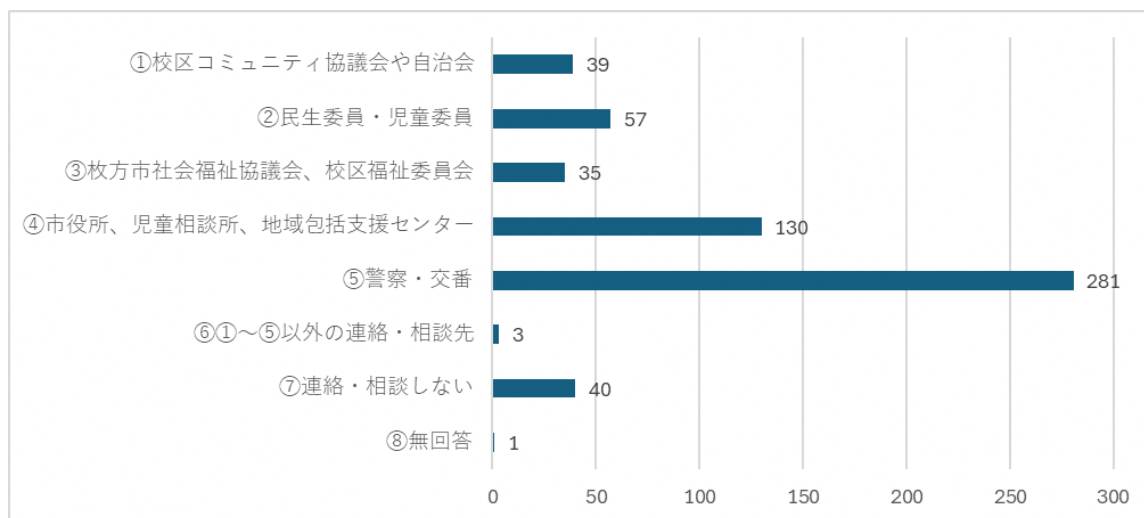
一方で、連絡・相談しないと回答された方の割合が他の設問よりも高く、その中でも「③他人が連絡・相談するべきことではない」を理由として選択された方が最も多く、次いで「①どこに相談したらいいかわからない」という結果になりました。このことから、設問のような福祉的課題について気軽に相談できる窓口の周知啓発や、いくつかの質問に答えることで必要な支援や相談窓口などの情報を得ることができる「枚方市 お悩みハンドブック」の周知が必要であることが分かりました。

問 13-1. 近所の人 が DV を受けているのではないか。(複数選択可)

選択項目	回答数 (件)
①校区コミュニティ協議会や自治会	39
②民生委員・児童委員	57
③枚方市社会福祉協議会、校区福祉委員会	35
④市役所、児童相談所、地域包括支援センター	130
⑤警察・交番	281
⑥①～⑤以外の連絡・相談先	3
⑦連絡・相談しない	40
⑧無回答	1
合計	586

●⑥を選択された方の回答 (自由記述)

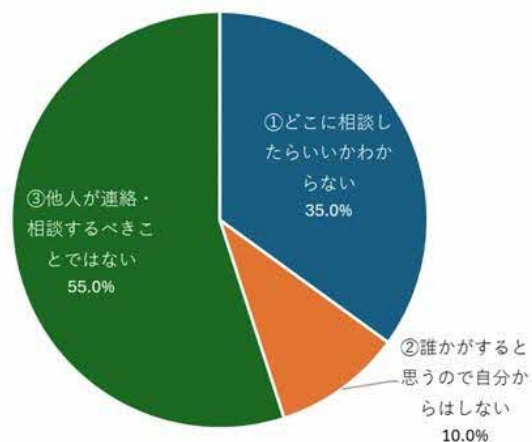
- ・ 弁護士
- ・ 近隣住民と相談する



【⑦を選択された方にお聞きします。】

問 13-2. 次のうち、あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①どこに相談したらいいかわからない	14	35.0
②誰かがすると思うので自分からはしない	4	10.0
③他人が連絡・相談するべきことではない	22	55.0
合計	40	



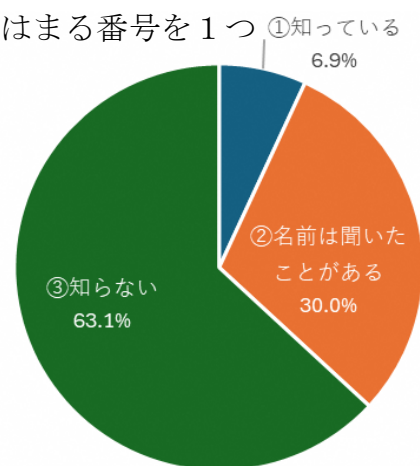
【考察】

近所の方がDVを受けているおそれがある場合の連絡・相談先は「⑤警察」が最も多く、次いで「④市役所等」となり、公的機関へ連絡・相談される方が多いことが分かりました。

次の相談窓口について、あなたはどの程度知っていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

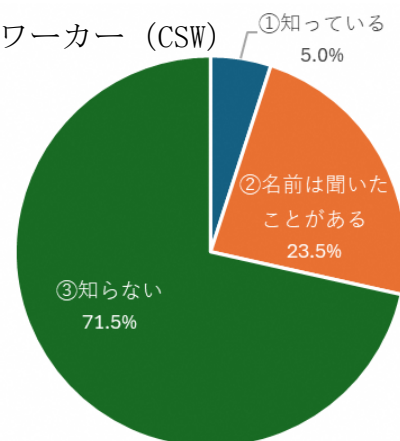
問 14. 健康・福祉なんでも相談

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①知っている	28	6.9
②名前は聞いたことがある	121	30.0
③知らない	255	63.1
合計	404	



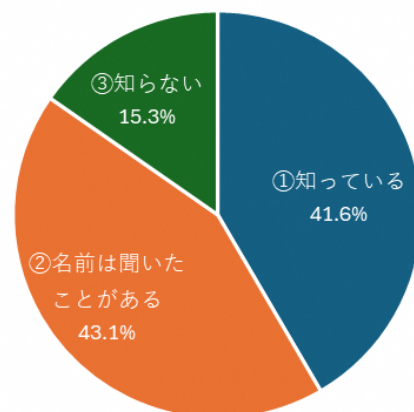
問 15. いきいきネット相談支援センター/コミュニティソーシャルワーカー (CSW)

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①知っている	20	5.0
②名前は聞いたことがある	95	23.5
③知らない	289	71.5
合計	404	



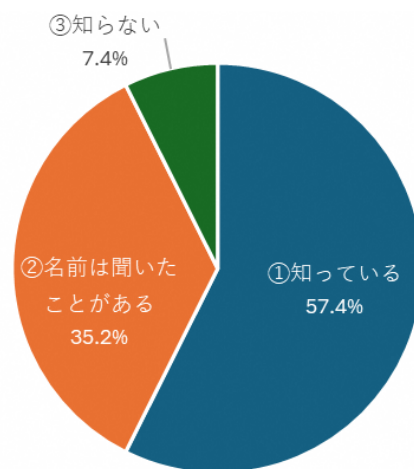
問 16. 社会福祉協議会

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①知っている	168	41.6
②名前は聞いたことがある	174	43.1
③知らない	62	15.3
合計	404	



問 17. 民生委員・児童委員

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①知っている	232	57.4
②名前は聞いたことがある	142	35.2
③知らない	30	7.4
合計	404	



【考察】

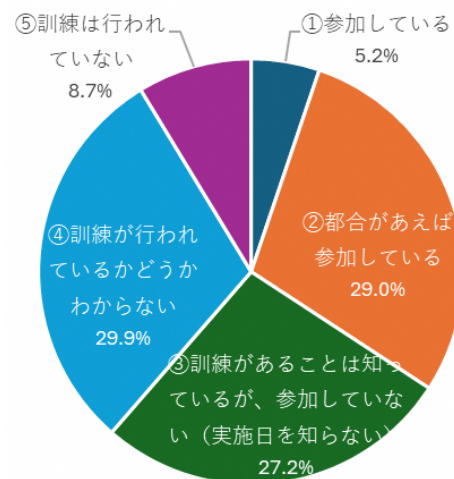
問 14 の「健康・福祉なんでも相談」、問 15 の「いきいきネット相談支援センター・CSW」については、いずれも「③知らない」と回答された方が最も多く 6 割を超え、「①知っている」と回答された方はいずれも 1 割に満たない結果となりました。健康や福祉などの困りごとを幅広く相談できる窓口である「健康・福祉なんでも相談」や、地域の包括的な相談窓口としての役割を担っている「CSW」について、より多くの方に認知してもらえるよう、引き続き周知啓発を行っていく必要があることが分かりました。

問 16 の「社会福祉協議会」、問 17 の「民生委員・児童委員」については、「①知っている」、「②名前は聞いたことがある」と回答された方がそれぞれ 8 割、9 割を超え、多くの方に認識されていることが分かりました。

《防災の取組みについて》

問 18. あなたは日頃から地域の防災訓練等に参加していますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①参加している	21	5.2
②都合があれば参加している	117	29.0
③訓練があることは知っているが、参加していない(実施日を知らない)	110	27.2
④訓練が行われているかどうか分からない	121	29.9
⑤訓練は行われていない	35	8.7
合計	404	

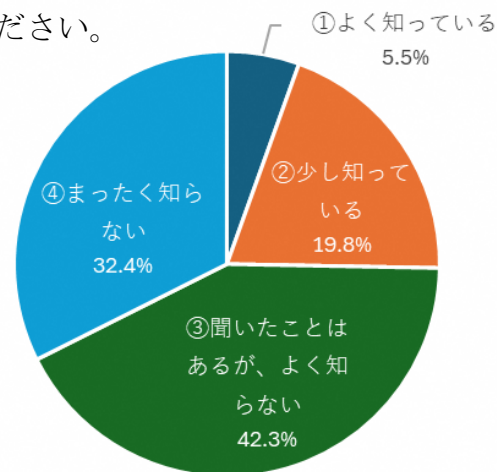


【考察】

「④訓練が行われているかどうか分からない」と回答された方の割合が最も多い一方で、「①参加している」「②都合があれば参加している」方が全体の3割強にのぼり、防災訓練等への関心が比較的高いことが分かりました。

問 19. 枚方市で災害が発生した際に、避難に支援を必要とする方などへの取組みがあることを知っていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①よく知っている	22	5.5
②少し知っている	80	19.8
③聞いたことはあるが、よく知らない	171	42.3
④まったく知らない	131	32.4
合計	404	



【考察】

「③聞いたことはあるがよく知らない」と回答された方が最も多く、次いで、「④まったく知らない」が多い結果となりました。

災害時に自力で避難することが困難な方々を把握し、必要な支援を実施するために「避難行動要支援者名簿」を作成するなどの取組みを進めており、こうした取組みの周知啓発が必要であることが分かりました。

## 《成年後見制度について》

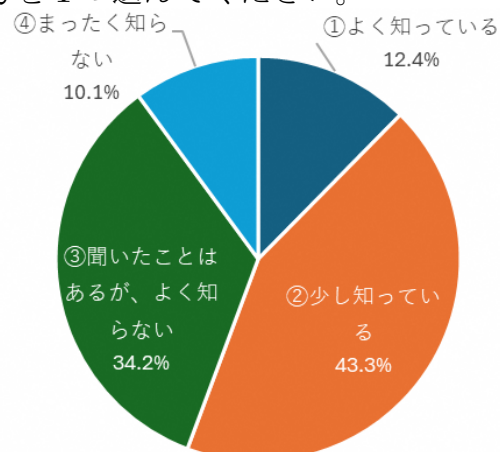
成年後見制度とは、認知症や知的障害、精神障害などで判断力が不十分な方に対して、代わりに判断したり、契約などを行うことで、生活面や法律面で本人の権利や財産を守る制度であり、次の2つの種類があります。

- ・法定後見制度…判断能力が不十分になった後、家庭裁判所に申し立てを行い、成年後見人等が選ばれる制度。
- ・任意後見制度…十分な判断能力があるうちに、将来判断能力が低下した場合に備えて、自らが選んだ代理人（任意後見人）に代わりにしてもらうこと（代理権）を契約（任意後見契約）により決めておく制度。

成年後見制度をはじめとする権利擁護に関する相談に応じる「ひらかた権利擁護成年後見センター（こうけんひらかた）」がラポールひらかた内にあり、制度の手続きの説明・助言など制度の利用に向けた支援を行っています。

問 20. 成年後見制度を知っていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

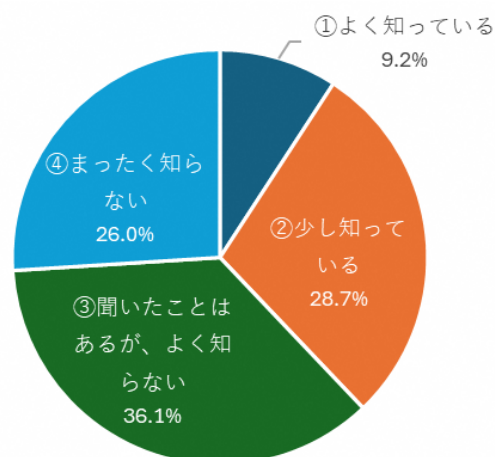
選択項目	回答数(人)	割合(%)
①よく知っている	50	12.4
②少し知っている	175	43.3
③聞いたことはあるが、よく知らない	138	34.2
④まったく知らない	41	10.1
合計	404	



問 21. 成年後見制度の2つの種類を知っていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

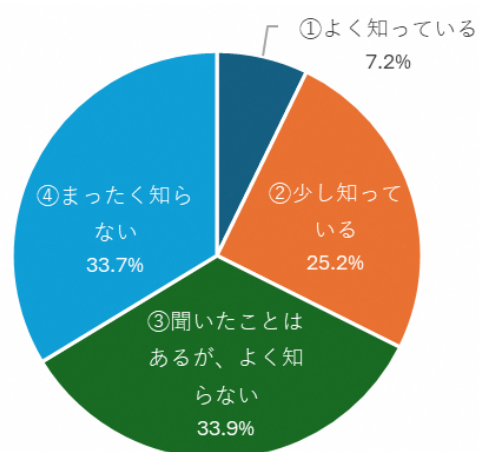
問 21-1. 法定後見制度

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①よく知っている	37	9.2
②少し知っている	116	28.7
③聞いたことはあるが、よく知らない	146	36.1
④まったく知らない	105	26.0
合計	404	



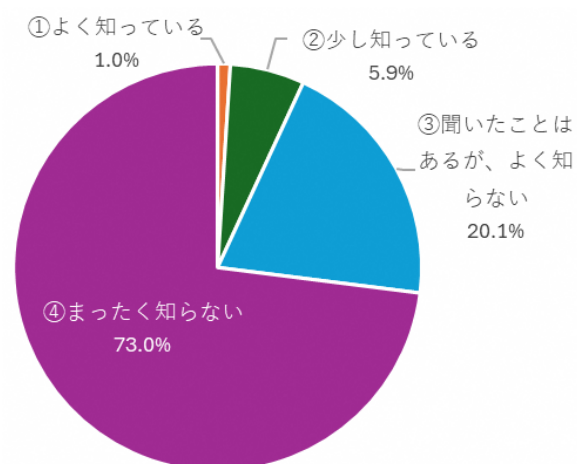
問 21-2. 任意後見制度

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①よく知っている	29	7.2
②少し知っている	102	25.2
③聞いたことはあるが、よく知らない	137	33.9
④まったく知らない	136	33.7
合計	404	



問 22. ひらかた権利擁護成年後見センター(こうけんひらかた)を知っていますか。  
あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①よく知っている	4	1.0
②少し知っている	24	5.9
③聞いたことはあるが、よく知らない	81	20.1
④まったく知らない	295	73.0
合計	404	



【考察】

成年後見制度自体の認知度は約55%と高いものの、法定後見制度と任意後見制度の認知度はそれぞれ3割ほどとなっており、制度の詳細については広く認知されていないことが読み取れます。また、ひらかた権利擁護成年後見センターについては、「④まったく知らない」と回答された方が7割を超える結果となりました。

《再犯防止について》

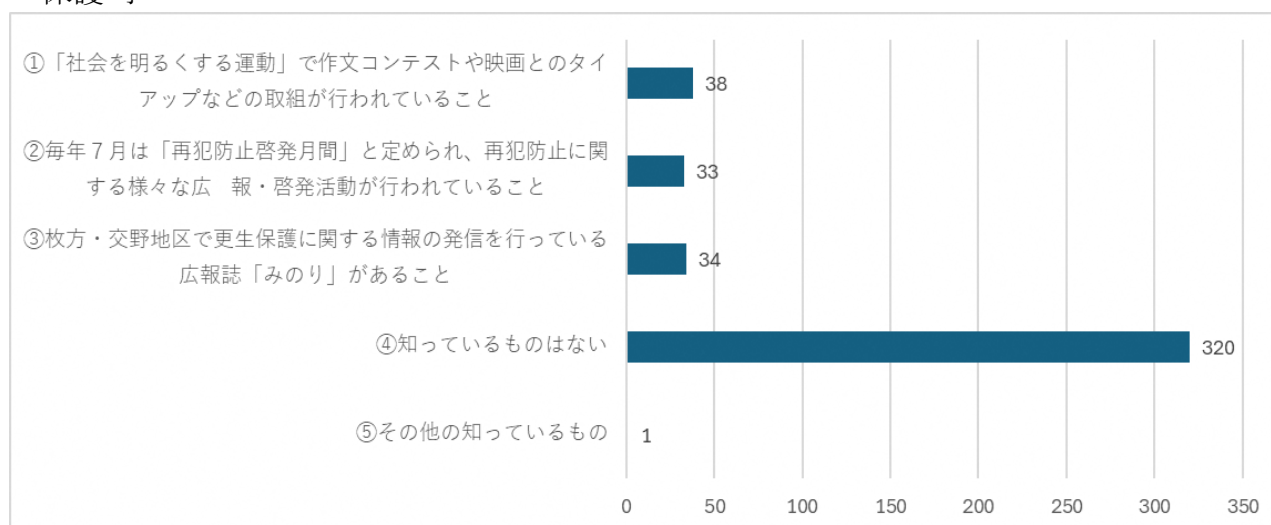
- ・「再犯防止推進法」第2条では、犯罪をした者又は非行少年もしくは非行少年であった者を「犯罪をした者等」といい、犯罪をした者等が再び犯罪をすることを防ぐこと（非行少年の非行をなくすこと及び非行少年であった者が再び非行少年となることを防ぐことを含む。）を「再犯の防止等」としています。
- ・犯罪をした者等が地域社会の一員として円滑に社会復帰できるよう、適切な指導や支援を受けることで再犯の防止等を図り、「地域共生社会」「誰ひとり取り残さない社会」を目指します。

問 23. 次の再犯防止の広報や啓発活動のうち、知っているものについて、あてはまる番号を選んでください（複数選択可）。⑤を選択した場合は詳細を記入してください。

選択項目	回答数（件）
①「社会を明るくする運動」で作文コンテストや映画とのタイアップなどの取組が行われていること	38
②毎年7月は「再犯防止啓発月間」と定められ、再犯防止に関する様々な広報・啓発活動が行われていること	33
③枚方・交野地区で更生保護に関する情報の発信を行っている広報誌「みのり」があること	34
④知っているものはない	320
⑤その他の知っているもの	1
合計	426

●⑤を選択された方の回答（自由記述）

・保護司

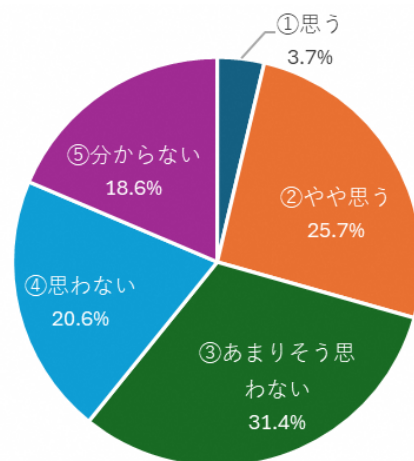


【考察】

「④知っているものはない」と回答された方が最も多く、全体の7割を超える結果となりました。より多くの方に知っていただくため、さらなる周知啓発が必要であることが分かりました。

問 24. 犯罪をした者等への立ち直りに協力したいと思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合 (%)
①思う	15	3.7
②やや思う	104	25.7
③あまりそう思わない	127	31.4
④思わない	83	20.6
⑤分からない	75	18.6
合計	404	



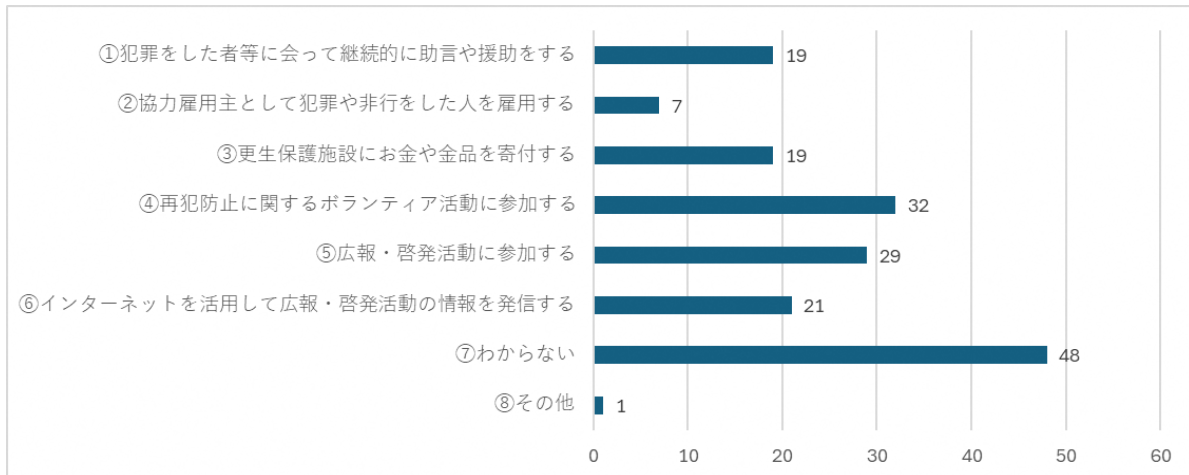
【問 24 で①または②を選択した方にお聞きします。】

問 25. 犯罪をした者等の立ち直りに、あなたが協力できると思うことはなんですか。あてはまる番号を選んでください（複数選択可）。⑧を選択した場合は詳細を記入してください。

選択項目	回答数(件)
①犯罪をした者等に会って継続的に助言や援助をする	19
②協力雇用主として犯罪や非行をした人を雇用する	7
③更生保護施設にお金や金品を寄付する	19
④再犯防止に関するボランティア活動に参加する	32
⑤広報・啓発活動に参加する	29
⑥インターネットを活用して広報・啓発活動の情報を発信する	21
⑦わからない	48
⑧その他	1
合計	176

●⑧を選択された方の回答（自由記述）

- ・心理カウンセリングを学んでいるのでそれで貢献できればと思います



【考察】

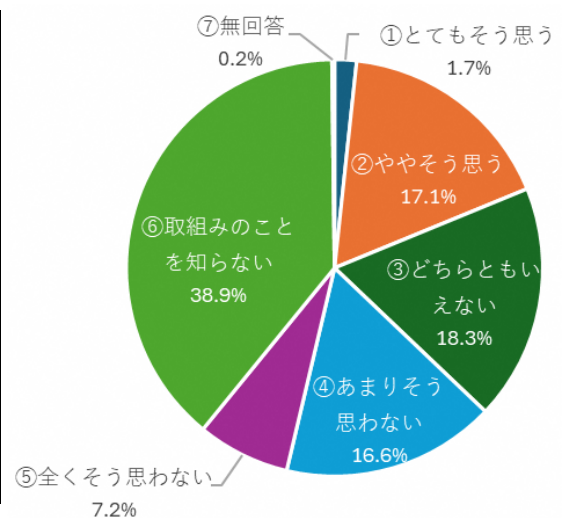
犯罪をした者等への立ち直りに協力したいと「④思わない」「③あまりそう思わない」と回答された方が半数を超える結果となりました。「①思う」「②やや思う」と回答された方も3割近くにのぼるものの、問25でどのように協力すればいいのかは「⑦わからない」と回答された方が多く、再犯防止に関する理解促進や再犯防止に向けた具体的な取組みの周知啓発が必要であることが分かりました。

《地域福祉の推進について》

枚方市は令和6年度に「枚方市地域福祉計画（第5期）」を策定し、地域福祉の推進に取り組んでいます。この1年間で、枚方市の地域福祉への取組みはどのように変わったと思いますか。1年前と比べてあてまはる番号を1つ選んでください。また、なぜそのように思われたのか、理由もお聞かせください。

問26. 課題をかかえた時の相談窓口や支援センターについて見聞きすることが増えた

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①とてもそう思う	7	1.7
②ややそう思う	69	17.1
③どちらともいえない	74	18.3
④あまりそう思わない	67	16.6
⑤全くそう思わない	29	7.2
⑥取組みのことを知らない	157	38.9
⑦無回答	1	0.2
合計	404	



●①を選択された方の理由（自由記述）

- ・広報誌で掲載記事を見たことがある
- ・お世話になったことがある

●②を選択された方の理由（自由記述）

- ・広報誌や市の SNS で目にするが増えた
- ・妊娠や出産をきっかけに意識することが増えた
- ・子どもや高齢者の問題が多くなり、相談窓口の周知が広がっていると思う

●③を選択された方の理由（自由記述）

- ・今までと変わらないと思う
- ・自分が関わることなく、普段から特に意識していない
- ・普段の生活の中で見聞きする機会がない

●④を選択された方の理由（自由記述）

- ・当事者でないため意識していない
- ・見聞きすることがない
- ・去年と変わったと思わない

●⑤を選択された方の理由（自由記述）

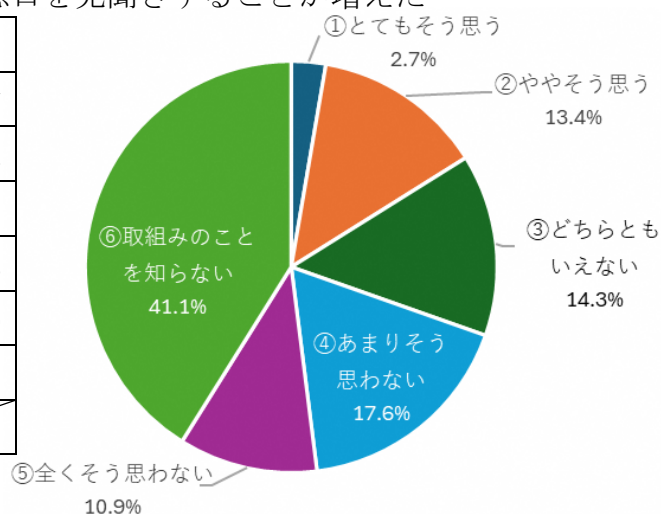
- ・周りで特に話を聞かない、活動が聞こえてこない
- ・周知がされていないと思う

【考察】

「⑥取組みのことを知らない」と回答された方が 4 割弱と、最も多い結果となりました。「①とてもそう思う」「②ややそう思う」と回答された方の理由として、実際に利用したことがある、妊娠・出産を機に意識するようになったなど、子育て世代を中心に、自分に関連のあることとして関心をもってもらうことが大きなきっかけになることが分かりました。また、広報誌や SNS などでの周知啓発も重要であることが分かりました。

問 27. 成年後見制度など権利擁護に関する情報や窓口を見聞きすることが増えた

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①とてもそう思う	11	2.7
②ややそう思う	54	13.4
③どちらともいえない	58	14.3
④あまりそう思わない	71	17.6
⑤全くそう思わない	44	10.9
⑥取組みのことを知らない	166	41.1
合計	404	



●①を選択された方の理由（自由記述）

- ・ 広報誌で記事を見たことがあり、研修にも参加したことがある
- ・ ケアマネジャーをしており、成年後見制度を利用される方が増えていると感じる

●②を選択された方の理由（自由記述）

- ・ 広報誌や SNS で目にするため
- ・ 親や自分の老後について考える機会が増えた

●③を選択された方の理由（自由記述）

- ・ 実際に関わることがなく、よくわからない
- ・ 日頃話題になることがなく、見聞きすることが増えたとは思わない

●④を選択された方の理由（自由記述）

- ・ 去年と変わっていないと思う
- ・ 情報として見かける機会は以前から変わっていないと思う

●⑤を選択された方の理由（自由記述）

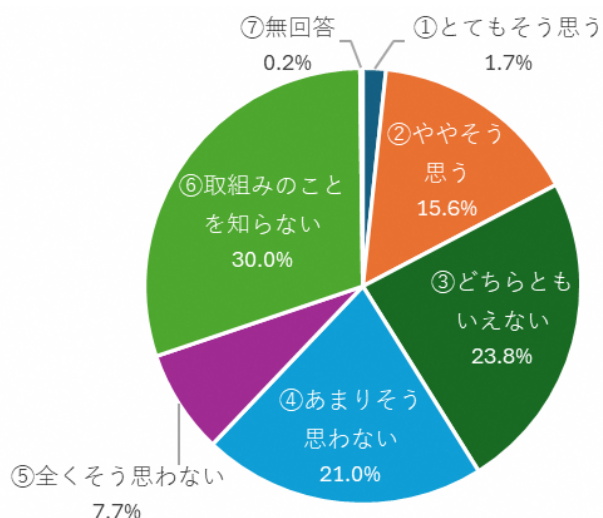
- ・ 周りで特に話を聞かない
- ・ 自分に関係がなく、意識していない

【考察】

「⑥取組みのことを知らない」と回答された方が最も多く、4 割を超える結果となりました。自分に関係がないため意識していない、周りで見聞きすることがないといった理由が挙げられており、自分に必要な状況にならなければあまり意識する機会がないということが分かりました。

問 28. 地域活動やボランティア活動が活発になった

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①とてもそう思う	7	1.7
②ややそう思う	63	15.6
③どちらともいえない	96	23.8
④あまりそう思わない	85	21.0
⑤全くそう思わない	31	7.7
⑥取組みのことを知らない	121	30.0
⑦無回答	1	0.2
合計	404	



●①を選択された方の理由（自由記述）

- ・月見会やクリスマス会など、地域での催しが頻繁に行われたため
- ・学校教育や企業の社会貢献活動などで、ボランティアに触れる機会が増えた
- ・SNS や地域アプリで活動情報が広まりやすくなり、参加しやすくなった
- ・自分自身も高齢者施設でボランティア活動をしている

●②を選択された方の理由（自由記述）

- ・広報誌やSNS で情報を目にすることが増えた
- ・地域で子ども食堂が増えたと思う
- ・イベント等でボランティアに関するブースをよく見るようになった
- ・子どもが学校でボランティア活動などにかかわることが増えた

●③を選択された方の理由（自由記述）

- ・特に変化がみえない
- ・活動自体が毎年同じようなもので、活発になっているとは感じない
- ・あまり関心がなく、情報が入ってこない

●④を選択された方の理由（自由記述）

- ・自分の周りでボランティアに取り組んでいる人を見かけたことがない
- ・高齢化などで、ボランティア活動の担い手が減っていると思う
- ・枚方市は以前から活発なイメージがある

●⑤を選択された方の理由（自由記述）

- ・自治会の加入率が低下し、イベントの参加者も減っている
- ・高齢化が進み、逆に後退していると感じる

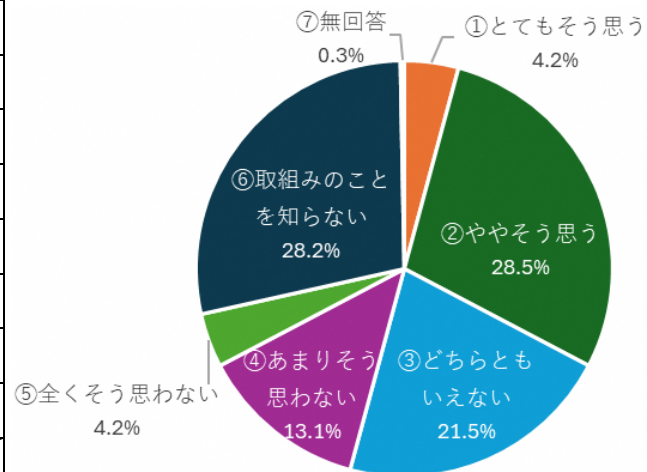
【考察】

「⑥取組みのことを知らない」と回答された方が 30%と最も多い結果となりました

た。「④あまりそう思わない」「⑤全くそう思わない」の理由として、自治会の加入率低下や高齢化による担い手不足のため活動が減っている点を挙げられる方が多く、若年層などが地域活動と接点をもつ機会をつくり、地域活動やボランティア活動の担い手となってもらうような取組みが必要であることが分かりました。

問 29. 防災マップや防災ネットワークなど災害時の支援体制が進んだ

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①とてもそう思う	17	4.2
②ややそう思う	115	28.5
③どちらともいえない	87	21.5
④あまりそう思わない	53	13.1
⑤全くそう思わない	17	4.2
⑥取組みのことを知らない	114	28.2
⑦無回答	1	0.3
合計	404	



●①を選択された方の理由（自由記述）

- ・防災マップや防災ネットワークをよく見かけるようになった
- ・南海トラフ地震のニュースなどから、社会全体の防災意識が高まっている

●②を選択された方の理由（自由記述）

- ・防災マップが自宅に配布され、目にする機会が増えた
- ・市の防災関連の取組や発信が増えたと思う
- ・自治会で防災グッズが配布されたり、防災訓練が実施されている

●③を選択された方の理由（自由記述）

- ・普段見聞きすることがなく、以前から変化がないように感じる
- ・以前から防災マップ配布や防災訓練など実施されており、特に進んだと思わない
- ・自治会の防災活動など、なにをしているのか分かりにくい

●④を選択された方の理由（自由記述）

- ・防災マップなどの存在は知っている程度で詳細は分からない
- ・取組みのことを聞くことがない

●⑤を選択された方の理由（自由記述）

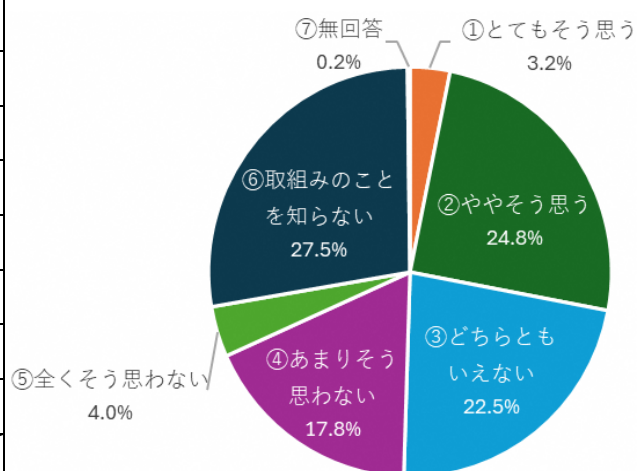
- ・防災マップは見やすくなったが、実際に活用されているところを見たことがない
- ・取組みの進捗状況を受け取る機会がない

## 【考察】

「②ややそう思う」と回答された方が 28.5%と最も多い結果となりました。本設問については、他の設問に比べて、「①とてもそう思う」「②ややそう思う」と回答された方が多く、また、その理由についてどの年代の方からも肯定的な回答やご意見が寄せられ、近年の自然災害の発生などから、防災への関心が高いことが読み取れます。一方で、「⑥取組みのことを知らない」と回答された方が 2 番目に多く、引き続き周知啓発を進めていく必要があることも同時に分かりました。

### 問 30. 高齢者や子どもの居場所となる拠点が増えた

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①とてもそう思う	13	3.2
②ややそう思う	100	24.8
③どちらともいえない	91	22.5
④あまりそう思わない	72	17.8
⑤全くそう思わない	16	4.0
⑥取組みのことを知らない	111	27.5
⑦無回答	1	0.2
合計	404	



#### ●①を選択された方の理由（自由記述）

- ・子ども食堂や高齢者ふれあいサロンを街中で見るようになったと感じる
- ・オープンスクエアにたくさんの子どもの参加しており、子どものコミュニティの一つになっていると感じる

#### ●②を選択された方の理由（自由記述）

- ・地域で子ども食堂が増えたと感じる
- ・子どもの遊び場や高齢者向けのイベントをよく見るようになった
- ・自分の周りで話を聞くことが増えた

#### ●③を選択された方の理由（自由記述）

- ・居場所についての情報発信がなく、増えているのか分からない
- ・利用する機会がないので分からない
- ・子どもの遊び場や居場所はまだまだ少ないと思う

#### ●④を選択された方の理由（自由記述）

- ・地域の親子サロンの開催回数が減っているため
- ・近所の子ども食堂が閉鎖していつている

- ・高齢者と子どもと一緒に集える場があればいいのと思う

●⑤を選択された方の理由（自由記述）

- ・拠点が増えたということ聞かない、知らない
- ・運営する担い手が減ってきているのではないかと思う

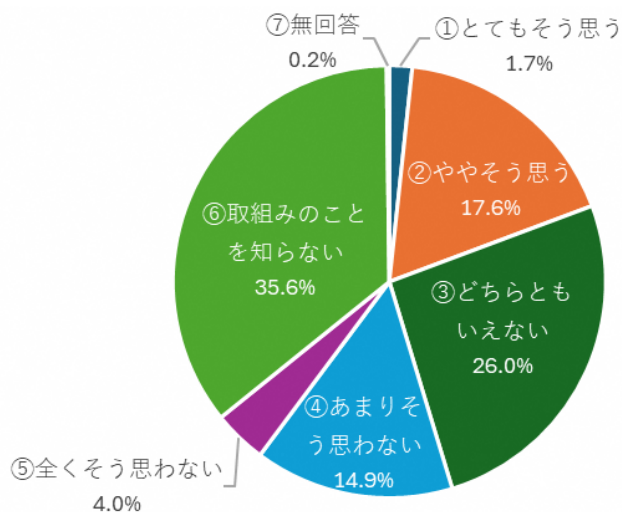
【考察】

「⑥取組みのことを知らない」と回答された方が27.5%で最も多くなりましたが、「①とてもそう思う」「②ややそう思う」と回答された方からは、子ども食堂やオープンスクエアが子どもの居場所としての役割を果たしているとの意見が多くあり、また、高齢者ふれあいサロンを街中でよく見るようになったとの意見もありました。

一方で、近所の子ども食堂が閉鎖している、親子サロンの開催回数が減っているなどのご意見もあり、地域によっても取組みの差があるものと考えられます。また、高齢者と子どもと一緒に集える場が欲しいといったご意見もあり、世代や属性を超えた居場所も求められていることが分かりました。

問 31. 福祉や人権についての理解が進んだ

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①とてもそう思う	7	1.7
②ややそう思う	71	17.6
③どちらともいえない	105	26.0
④あまりそう思わない	60	14.9
⑤全くそう思わない	16	4.0
⑥取組みのことを知らない	144	35.6
⑦無回答	1	0.2
合計	404	



●①を選択された方の理由（自由記述）

- ・ヘルプマークの浸透や障害者スポーツ等の展開により、障害者の方への理解が広まっているように感じる

●②を選択された方の理由（自由記述）

- ・小学校低学年から福祉教育などいろいろな取組みが展開されている
- ・図書館で展示がされているのを見かけたことがある
- ・差別が少なくなったと感じるため

●③を選択された方の理由（自由記述）

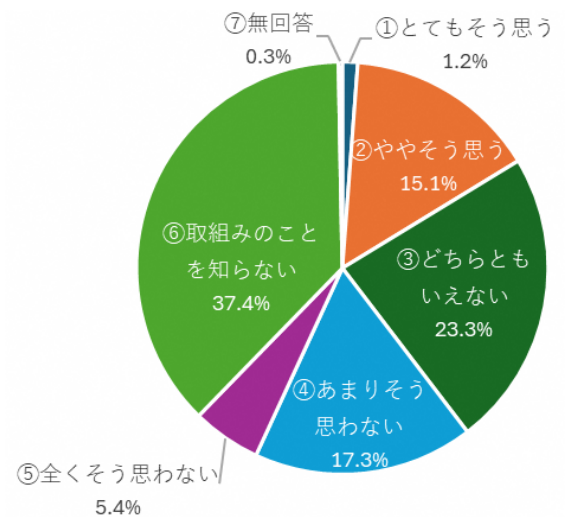
- ・理解がない人も未だに多いと感じるため
- ・簡単に理解が進むようなものではないと思う
- ・あまり見聞きすることがない
- ④を選択された方の理由（自由記述）
  - ・福祉や人権についてのアプローチがまだ弱いと感じる
  - ・人権侵害の発言や事件をまだまだ目にするため
- ⑤を選択された方の理由（自由記述）
  - ・障害者に対する世間の理解がまだまだないように思う
  - ・取組みを目にするすることがない

【考察】

「⑥取組みのことを知らない」と回答された方が 35.6%で最も多い結果となりました。社会全体の意識が変わってきており、福祉や人権への理解が進んでいるというご意見がある一方で、いまだに人権侵害の事件や誹謗中傷などが多く、理解が進んでいないというご意見も多くありました。福祉教育や人権教育などの取組みについて、さらなる周知や推進が必要であると考えられます。

問 32. 高齢者や子どもや障害者との関わり方について学ぶ場が増えた

選択項目	回答数(人)	割合(%)
①とてもそう思う	5	1.2
②ややそう思う	61	15.1
③どちらともいえない	94	23.3
④あまりそう思わない	70	17.3
⑤全くそう思わない	22	5.4
⑥取組みのことを知らない	151	37.4
⑦無回答	1	0.3
合計	404	



- ①を選択された方の理由（自由記述）
  - ・学校や地域で福祉教育や共生学習が重視されるようになったと感じる
  - ・介護や障害の理解に関する研修・講座が行政や施設で積極的に行われるようになったため
- ②を選択された方の理由（自由記述）
  - ・小学校いきいき広場で障害者との関わりも増えた

- ・市民講座やイベントなどが増えたと思う
- ・子どもの学校で高齢者が昔の遊びを教えてくれる機会があった
- ③を選択された方の理由（自由記述）
  - ・普段の生活の中で学ぶ場が増えたようには感じない
  - ・認知症サポーターに関してはよく講座開催案内を見るようになったが、子どもや障害者に関してはもっと学びの場を増やしてほしい
- ④を選択された方の理由（自由記述）
  - ・どこで学べるのか分からない
  - ・広報誌やHPなどで取り上げられていると感じない
- ⑤を選択された方の理由（自由記述）
  - ・周りの子どもが、高齢者や障害者とかかわるような学びの場はない

### 【考察】

「⑥取組みのことを知らない」と回答された方が 37.4%と最も多い結果となりました。学校での福祉教育や地域での福祉に関する講座が行われているというご意見がある一方で、どこで学べるのか分からない、学ぶ場が増えたと思わないといったご意見もあり、学校以外での取組みや、関連講座等の周知啓発が必要であることが分かりました。

### 【まとめ】

今回のアンケートで率直なご意見やご指摘を数多くいただきました。地域活動やボランティア活動に年に1回も参加されていない方も多く、活動の担い手の高齢化などが課題という声も寄せられており、若年層や現在参加されていない方を巻き込む仕組みづくりが求められていると考えられます。

相談窓口についても、「健康・福祉なんでも相談」や「CSW」、「ひらかた権利擁護成年後見センター」などの認知度が低く、自身や近隣の方が困った際に気軽に相談してもらえるように、今後周知啓発の方法について検討する必要があります。

また、問 26～32 の地域福祉の推進に関する設問においても、「取組みのことを知らない」と回答されている方が多いことが分かりました。地域福祉の推進にあたっては、行政だけではなく、地域住民、教育機関や医療機関、社会福祉施設、民間事業者など、多くの方に関わっていただく必要があると考えており、制度や取組みの内容を広く知っていただく機会の検討が必要であると感じました。

枚方市地域福祉計画（第5期）は、令和7年度から11年度までの5か年計画となっております。本計画が掲げる基本理念「みんなが、いつまでも安心して地域で暮らせるように…支え合える地域を創る」の実現に向けて、今回いただいたご意見を参考とさせていただき、本市の地域福祉の推進に向けて取組みを進めていけるよう検討してまいります。